

市場周辺拡大図

板屋周边扩大图



H 本陣跡

加太宿の本陣は板屋に置かれていました。「本陣跡」の石の標柱があります。

茅葺（トタン）で覆われている（？）建物は、本陣当時のものではありませんが、加太地域に残る唯一の茅葺建物です。

A painting of a forest path with a wooden bridge over a stream. The scene is lush with green foliage and tall trees, creating a serene and natural atmosphere.

A painting of a forest path with a wooden bridge over a stream. The scene is lush with green foliage and tall trees, creating a serene and natural atmosphere.



広域マップ

1 関宿西の追分
東海道関宿の西の入口で、東海道から加太越奈良道が分岐していました。加太越奈良道の東の基点です。

2 加太越奈良道鈴鹿川渡河地点
江戸時代の『加太越奈良道見取絵図』では、この場所に「鈴鹿川土橋」があり、街道が鈴鹿川を渡っていました。橋のたもとは「富士権現」が祀られています。現在、鈴鹿川には「大和橋」が架けられています。橋の東側には「橋越地蔵」があります。

3 古代「鈴鹿関」跡
「鈴鹿関」は、「美濃不破関」(みのふわのせき)「越前髪関」(えちぜんあらかのせき)とともに古代三関に数えられる関所です。主申の乱(672)の折には、大海人皇子により関が固められました。近年の調査で関の築地堀跡が確認され、奈良時代の「重園文軒丸瓦」が発掘されています。

6 平ノ沢城跡
南北朝時代、南朝方であった楠木正盛(楠木正成の曾孫が平地に落ちのび築いたとされています)。

4 金場集落
「鐘鑄場」と記されることもあり、南北朝時代に鑄場があったとされています。街道は、金場集落を抜けると、鉄道線路あたりで加太川を渡って対岸の「平地」に至り、再び加太川を渡って「栗ノ木地蔵」あたりに出ていたとされています。

7 笹ヶ平古墳
街道北側の山腹に、横穴式石室をもつ7世紀初頭頃築造と考えられる古墳があります。鈴鹿川流域では最上流部に位置するもので、大和街道(古代における東海道)との関係も指摘されています。

9 バンドウ越
加太から坂下にぬける峠道です。

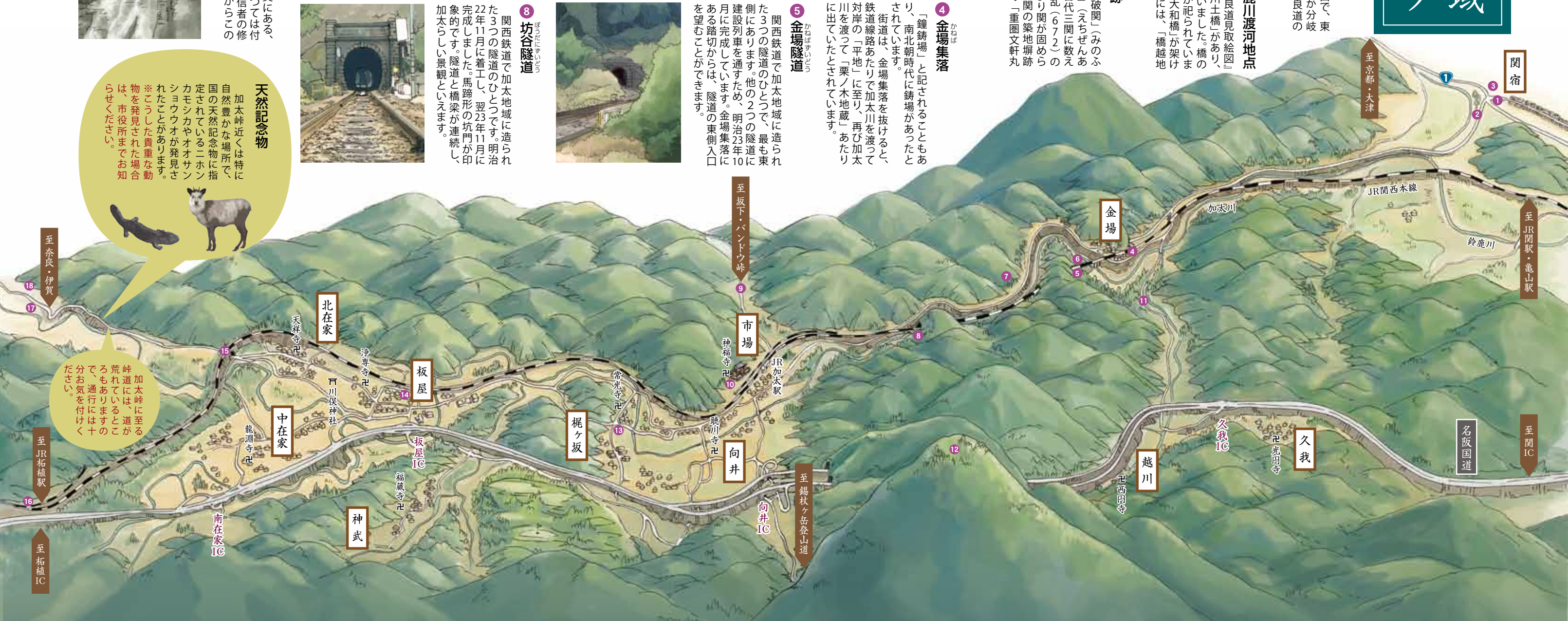
10 市場集落
市場集落は、加太宿の中心のひとつで、問屋場・高札場が設けられていました。問屋場は荷物の継ぎ立てを行うところで、明治元年に加太伝馬所に、同5年には加太陸運会社、その後関西鉄道株式会社にその役割が移っています。

17 加太越え
伊勢国と伊賀国の境になる峠です。峠の標高は300m余りです。峠には一ツ家という集落があり、かつては十数軒の人家がありました。

18 不動滝
加太峠に近い谷の最奥にある、落差16m程の滝です。かつては付近に不動明王が祀られ、信者の修行が行われていたことからこの名があります。

天然記念物

加太峠近くは特に自然豊かな場所ので、国の天然記念物に指定されているニホンカモシカやオオサンショウウオが発見されたことがあります。
※こうした貴重な動物を発見された場合は、市役所までお知らせください。



11 越川
金場集落の東の入口から南にのびる道は、越川・久我に抜ける間道で、「越川」と呼ばれています。金場集落入口との分岐点には、「石伊賀 左越川」と刻まれた大正3年の道標があります。

12 錫杖ヶ岳
亀山市と津市との境にある、標高676mの山です。頂が3つ並ぶ特徴のある形から雀頭山とも呼ばれます。周辺から方角を知る目印になっています。

13 梶ヶ坂集落
現在は「梶ヶ坂」と表記されますが、江戸時代以前は「鍛冶坂」と表記されています。天文13年(1544)鹿伏兎定住はここに居館を構えて鍛冶坂城とし、加太神武にあつた浄光寺を居館内に再興して、常光寺に改めたと伝えられています。



15 大和街道架道橋
関西鉄道の線路と大和街道が交差する位置にあり、明治23年(1890)に完成しました。長さ4.5m、幅15.1mで、周辺では最大規模の架道橋です。

14 板屋集落
板屋集落は加太宿の中心のひとつで、本陣が置かれていました。

16 加太隧道・スイッチバック
加太隧道は、延長が関西線中最長の930mあり、勾配も1/40と最も急な隧道です。工事は、東口(加太側)・西口(柘植側)・縦坑(中央部)の3口から掘削が行われ、明治23年12月に完成しました。北在家集落から加太隧道にかけては、急勾配を均等に上っていくため、大きな堤が築かれています。また、スイッチバックのための線路も設けられていましたが、現在は使われていません。
※鉄道線路等への立入は厳禁です。



加太かんこ踊り

「市指定無形民俗文化財」
加太地域の市場・向井・板屋・中在家・北在家の各集落では、飾りや燈籠を付けた笠をかぶり、体の前につけたかんこ(太鼓)を打ちながら、数人が一組となつて踊る「かんこ踊り」が伝承されています。毎年8月のお盆の夜、各集落のお寺の境内で踊られています。

